

⑦ユニバーサルデザインの計画 | 世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設とするための具体的方策

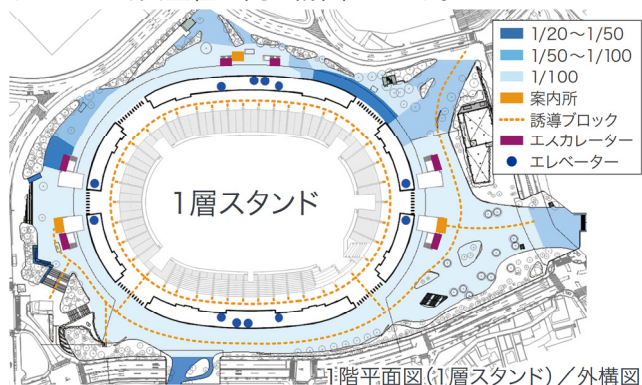
世界最高水準の「行きやすさ」「観やすさ」「安全性」「快適性」を兼ね備えたユニバーサルデザインスタジアムをみなさんとともに実現します

IPC基準を遵守すると共に、各計画フェーズ毎にユニバーサルデザインワークショップを開催し、様々な利用者へきめ細やかな配慮を行うことで、様々な人が『公平で平等な機会』の享受が可能なスタジアムを創出します。

1 様々な利用者への配慮
様々な人が利用しやすいフラットなスタジアムを計画します

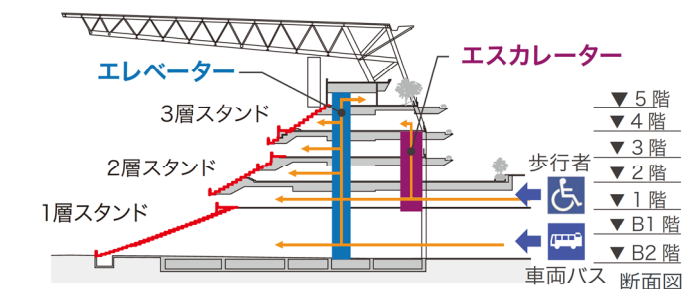
1 安全にアクセスができるスタジアム計画

- 一般観客と車いす使用者、高齢者の公共交通最寄駅からの動線は全て同じルートとなるよう計画することで、様々な人に分かりやすい動線を形成します。
- 本計画において、施設の玄関となる1階は十分なフラット性を実現するレベル設定を行います。道路から直接アクセスが可能な東側からは1/50勾配、東京体育館に接続する歩行者デッキ1号からも1/20勾配を実現し、様々な人がアクセスしやすいスタジアムとします。
- コンコースは水が留まらず、濡れても滑りにくい仕上げとすることで、安全性の高い計画とします。



2 安全でフラットな水平移動を実現

- 敷地内経路、各階コンコース、諸室への動線等、各フロア内の水平移動は段差のないフラットな計画にすることで、様々な人が快適にアクセスできる計画とします。
- 歩行者と車のアクセスレベルをB2階と1階で明確に分離することで、歩行者にとって常に安全な歩行環境を提供します。



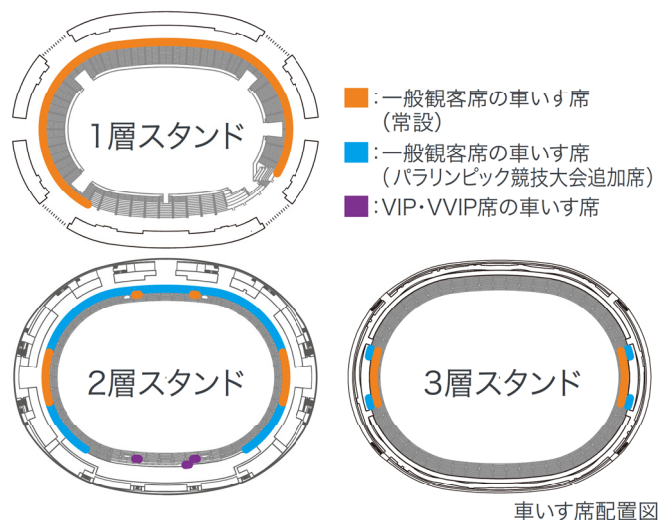
3 目的地まで円滑に移動できるシンプルな平面計画

- 南北対称、東西対称のシンプルで見通しがきく分かりやすい平面計画にすることで、目的地までの動線を把握しやすくします。
- サインの色彩をメイン・バック・南北サイドの各スタンド毎に色分けすることにより、現在地を把握しやすい施設とします。

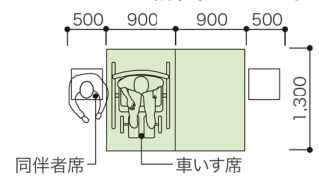
2 車いす使用者への配慮
全てのエリアで車いす使用者が安心して利用できるスタジアムを計画します

1 どこからでも観戦可能な車いす席配置計画

- 1~5階(5階はパラリンピック競技大会の開催時のみ)全ての階にバランスよく車いす席を計画します。
- 一般席、VIP席、VVIP席各エリアに車いす席を計画します。



- 全ての車いす席へエレベーターでのアクセスが可能です。アリーナイベント時には、南北のエレベーターを使って安全にフィールドへアクセスできる計画とします。
- 同伴者席によって車いす席が分断されず、2席が隣り合う座席計画とします。



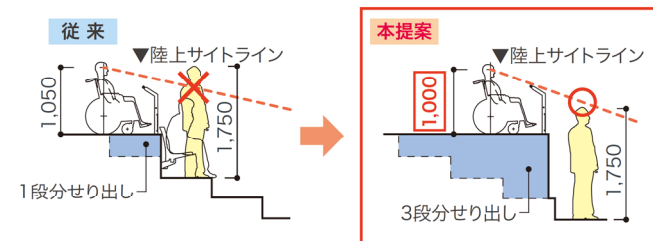
2 パラリンピック競技大会への移行性に優れた車いす席計画

- 車いす席約450席分を常設で確保することで、オリンピック競技大会以降も車いす使用者が利用しやすい計画とします。
- パラリンピック競技大会時は車いす席を約700席を確保します。パラリンピック仕様への移行について、オリンピック終了後の短い移行期間の中で、極力設営の負担を低減する必要があります。2層スタンドの車いす席の増設については、座席の取り外し以外の撤去が不要な簡易なオーバーレイ方式が可能な計画とします。



3 感動の瞬間を分かち合えるサイトライン計画

- 従来の車いす席計画は、前列の人が着席時のサイトラインを確保することが一般的でした。そのため、前列の人が立った場合、決定的な瞬間を見逃してしまうケースがありました。今回の提案では、2~3段分のせり出しを常設で計画することで、前列の人が立ちあがった状況でもサイトラインを確保し、得点シーンなどを見逃すことなく、感動の瞬間を分かち合うことができます。

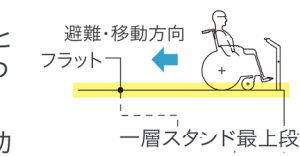


- 眼高の設定については、眼高の低い車いす使用者(女性)のサイトラインを極力確保できるよう、建築設計標準内に参考値として示されている105cmより低い100cmを標準として計画します。(基本図面P12参照)
- 前列の人の身長については、日本人男性の平均身長170cmに履物厚さ5cmを足した175cmを想定します。サイトライン確保が一番難しい2層目最上段においても、視界を妨げない計画とします。
- 手摺高さについては火災予防条例に定められている75cmで計画します。手摺先端の角度を斜めにすることで、良好なサイトラインを形成するとともに、奥行をもたせて安全性の確保と乗り越えの恐怖感の軽減を図ります。



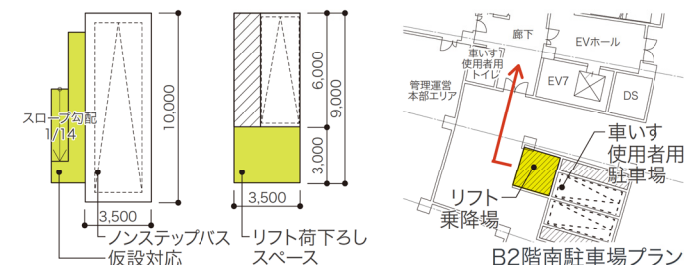
4 安全な避難環境の実現

- 車いす席をフラットにすることで、避難時において、安全かつ円滑な避難が可能です。
- 災害時、車いす使用者の救助用に利用可能な非常用エレベーター(12台)及び一時避難スペースをバランス良く確保します。



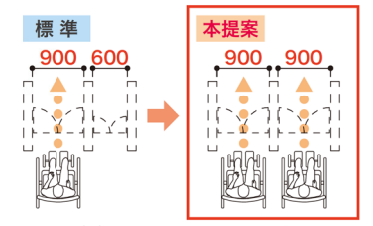
5 多様な車いす用車両に対応した駐車場計画

- B2階にIPC基準以上の車いす使用者用駐車場(計22台>6台)を確保することで、車いす使用者の積極的な受け入れが可能な計画とします。
- ノンステップバスに対応できるように、仮設乗降場をB2階に計画します。
- 車いすリフトに対応した駐車場をB2階に7台計画します。さらに、車いすリフト対応車両駐車場には、後方に十分なスペースと、安全に建物内へアクセスできる動線を確保します。(基本図面P03参照)
- 車いす使用者用駐車場付近にも車いす使用者用トイレを設置します。



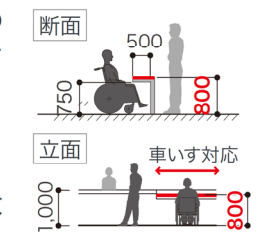
6 あらゆるサイズの車いすでのアクセスが可能な計画

- 車いす使用者がどこからでもアクセスができるよう、すべてのゲート寸法を、ハンドル式車いすにも対応可能な、幅90cmとします。
- 寝たがりの重度障がい者も移動可能なエレベーター(カゴ奥行寸法200cm)を全てのエリアに設置します。※ストレッチャーで緊急搬送も可能
- 電動車いすの充電スペースを各層の車いす席近くに計画します。



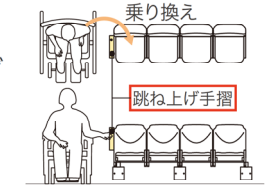
7 車いす使用者にフィットする快適な利用環境の実現

- 案内所、チケット売り場、売店のカウンターの一部をローカウンターにすることで、車いす使用者が使いやすい計画とします。
- 車いす席をフラットにすることで、飲食物を膝上のトレーに乗せた状態でも、快適な移動が可能です。



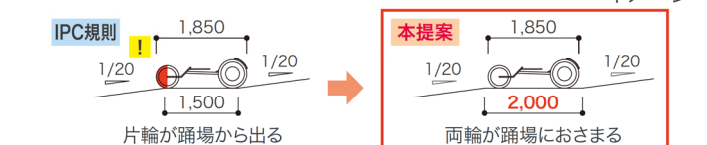
8 乗り換え対応席の整備

- VVIP座席のひじ掛けをはねあげ式とし、車いすからの乗換えが可能な仕様とすることで、観戦環境の選択が可能な計画とします。

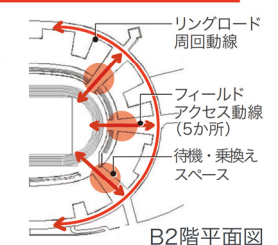


9 円滑な競技運営をサポートする配慮

- サブトラックへの連絡通路スロープを、①1/20勾配(IPC)、②高さ50cm毎の踊場(IPC)、更に③踊場奥行きを200cmで計画します。全長が約180cmある競技用車いすでも、踊場での休憩が可能となります。



- 競技に出場する選手を種目別のスタート地点へ円滑にカート搬送することを想定し、B2階第1~第4コーナーのゲート付近にカート待機用の駐車場を計画します。選手にとって安全・快適であり、スムーズな大会運営のサポートが可能です。



- フィールドへのアクセス動線の一部空間を、競技用車いすへの乗換えや待機場、車いすの一時保管スペースとしての利用を想定し、フレキシブルに活用ができるよう十分な広さを確保した計画とします。
- 選手動線上の出入口の有効開口幅を100cm、高さ230cmとすることで、体格の大きな選手や、競技用具を持ったアスリートや競技用車いす使用者が円滑に移動できるようにします。
- ロッカールーム、シャワールーム、更衣室について、車いす使用者も快適に利用できるよう、引き戸(有効幅120cm)、車いす使用者用トイレブース、シャワー用のいすを適切に設置し、障がい者スポーツ競技にふさわしい場として整備します。
- フィールド内には、車いす投てき競技用の台座固定フックを設置できる仕様とし、パラリンピックに対応可能なスタジアム計画とします。